

教養基礎教育科目 アセスメント・ポリシー

教養基礎教育科目において修得した知識、技能並びに態度を多面的に評価するとともに、ディプロマ・ポリシーに則して、教育内容が適切に構成され、効果的な教育方法等によって実行されているかを検証します。

1. 評価の内容

講義科目や演習科目では、知識とその応用力を評価します。実験・実習科目では、技能、態度、コミュニケーション能力についても評価します。

2. 評価の方法

知識とその応用力に関しては、筆記試験や課題レポート等により評価します。また、科目によっては外部試験（TOEIC, TOEFL 等）も評価に活用します。技能は実技試験、その他の能力は実習現場評価（レポート、ルーブリック、ワーク・プレイス・アセスメントおよび自己評価等）を取りまとめたポートフォリオなどで評価します。

3. 評価の基準

筆記試験は数値化して達成度を評価します。実技試験や実習現場評価では、可能な限り数値化できる評価法を用いて達成度を評価します。また、数値化できないものについては、達成度評価のためのルーブリック等を作成し、可能な限りこれを公表します。科目の成績は、次に示すレターグレード（S, A, B, C, D（不合格））で評価します。

レターグレードと評点、及び評価基準表		
グレード	評点（100点満点）	評価の基準
S	90点以上	基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている
A	80点以上、90点未満	基本的な目標を十分に達成している
B	70点以上、80点未満	基本的な目標を達成している
C	60点以上、70点未満	基本的な目標を最低限度達成している
D	60点未満	基本的な目標を達成していない

4. Grade Point Average (GPA)

GPAによる成績評価方法を導入し、学生個人および科目の達成度の評価に利用します。

5. 再試験および追試験

定期試験で、所定の到達目標に達しなかった場合は、再試験を行うことがあります。また定期試験を何らかの正当な事由で受験できなかった場合は、追試験を行うことがあります。

6. 出席条件

科目履修は出席することが前提ですので、原則として欠席は認められません。

7. 情報の開示

科目 GPA の情報を学生に公開します。また、個々の成績評価に関し、学生からの照会に応じます。

8. 点検と改善

評価方法の選定と基準の設定にあたっては、その妥当性、客観性ならびに実現可能性を考慮し、教育推進総合センターにて定期的に見直しを行います。さらに、科目 GPA の平均値および分布の状況を教育推進総合センターで点検し、教育内容および教育方法の改善につなげます。